

提携米通信

2010年2月号・黒瀬農舎発

やっぱり雪は少なく・今年も暖冬です。



厳冬期だというのに、吹き溜まり側の屋根の落雪を残して、雪の姿が消えました。(2010/1/28撮影)

今冬は、文化の日に早々と雪が降ったり、年末は寒くて、雪も多目で、猛吹雪の中で新年を迎えるなど、久しぶりの「まともな冬」を取り戻したようでした。

ところが、その後は、週間天気予報で「秋田地方は来週は大雪の恐れ」と予報されることが多いものの、実際には、雨

や晴天の日が多く、雪はあまり降らない毎日です。

上の写真は、我が農舎の作業場の裏口です。倉庫の風下側の吹き溜まりと、屋根の落雪が堆積したこのような場所だけに雪が残り、道路はもちろん、田圃にも、今の時期は、1月末の厳冬期だというのに雪の姿はほとんどありません。

今月13日の土曜日、ナマハゲ柴灯祭と熊鍋を予定していますが、この調子ですと、雪の夜の幻想的なナマハゲ柴灯祭(セドマツリ)は味わえない恐れがあります。

でも、友人が仕留めた熊は準備済みです。柴灯祭など秋田の厳冬期の風情はさておき「熊鍋」期待の方はどうぞ。(関東方面からは、次の経済的な航空券購入方法を参考にして下さい。)

◎JAL国内ツアー 羽田・秋田往復 2万1千円 (年齢制限なし/10日前購入)

* JALのHP→上にある「国内ツアー」→左上側の「JALダイナミックパッケージ」に必要事項を入力。

◎65歳以上の方。シルバー当日(S)割引 片道 1万円 (大阪・名古屋・千歳も同じ)

* S割は予約不可。当日空港購入限定ですが、秋田便は週末以外ほとんど当日購入可能です。

JALツアーは、秋田市内のホテルの宿泊がセット。航空券単独購入よりも、この切符で、ホテル泊を捨てる方がお得です。(値段は少し違いますが、ANAにも同様のツアーあります。)

また、この行事は土日ですので、飛行機が満席の場合は、前日や翌日も我が農舎のロッジに宿泊滞在し、村の温泉などを愉しみ、気分転換されるのもいいでしょう。(前後泊日は、各自で自炊・外食。宿泊は無料です。) *イベント参加やロッジ宿泊は、黒瀬農舎のお米ご利用の方に限定です。

「寒い冬の秋田はイヤ!」という方は、春や夏の時期に、このような格安切符を活用して黒瀬農舎をお訪ね下さい。(夏期のS割は現時点では未設定ですが、春以降に設定される見込みです。)

☆お歳暮や旅行などでお米の余った方は、遠慮なく、早めにパスなどのご連絡を...
☆お餅は無添加です。万一カビが出た時は代品送付します。ですのでご連絡下さい。

提携米 黒瀬農舎

☎010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・喜多

TEL 0185-45-3086 FAX 0185-45-2887



E-mail : akita@kurose.com <http://www.kurose.com>

冬の間も、作業場で愉しんでいます。

昨年の夏のイベント・「田圃公開と白神ブナツアー」にお越し下さった東京の〇さん。巨大なオフィスビルやマンションなどの電気設備の設計や施工が専門とか。

我が農舎の精米や乾燥貯蔵の倉庫のほとんどの設備や電気工事は、無登録、無届け、無資格の私の自作。これらを見て「これは驚いた。よくぞここまで出来たもの・・・」などと感心して下さいました。

でも本当は、半分以上がお世辞。〇さんは専門家として心配下さったのではないかと思います。

その後、秋までに2度ばかり（延べ1ヶ月ほど）ロッジに逗留下さって、現状の施設の計測を行いキヤドで精緻な図面を作ったり、容量不足の恐れのある幹線配電の大改修に、旅費までも自弁で、取り組んで下さいました。

私も一緒に…とは思っても、田圃に稲がある期間は、手伝いする時間ありません。

〇さんは、この間毎日ロッジで自炊して倉庫に通い、工事を進めて下さいましたが、本業の大型工事が東京で始まり、電気工事は未完成のままになっていました。



米ヌカ収集装置／H22/1/15完成



増設したお米の低温保管庫 ほぼ完成

これとは別に、我が農舎では昨年秋過ぎに、お米の低温保管庫の増設改修を行いました。

この工事も、いつも通り一部は地元の大工さんに頼み、細部の設備やコンクリート打ちは私の自作。

「凍結で工事不能になる厳寒期に入る前に」と焦っていても、自分で行うので、お餅の出荷などに追われ、やっと年末に近く

にミキサ一車と呼ぶことができ、滑り込みで仕上がりました。

正月が明けてからは、増設の低温保管庫のクーラー設置や、〇さんが設計や材料選定準備下さって未完成になっている電気工事に取り組んでいるところです。

この電気工事は、〇さんの技術からすれば可愛いものですが、住宅の電気工事屋さんでは、少々手に余るレベルの仕事。

しかし、今回は〇さんの設計と技術指導の後ろ盾のお陰で、私も自信をもって安心して工事が進められ、種蒔き準備までの完成を目指して冬の農閑期を愉しんでいます。

右上の写真の、米ヌカを集積する装置は、精米機から吐き出される米ヌカを一旦サイクロンで受け、自然落下させ、オーガーコンベヤーにモーターを取り付け、1番目の1000リットルの袋が一杯になれば、自動的に2番目の袋に入るように、手作りしたものです。材料は、クズ鉄屋さんの集積所から集めてきた廃品です。

このような精米や乾燥貯蔵工程の電気配線や自動化の部品を探すなどの時には、これからは、〇さんにアドバイス頂ける道ができ、心強く思い感謝しているところです。